



Kanazawa Garden Culture:
A Stroll in a Castle Town

金沢の
庭園文化

歩いてめぐる

金沢のまちの姿

Kanazawa City



水と緑に 抱かれたまち

Characteristics of the City

現在の金沢の中心市街地は、元来の自然環境を素地として広がり、同時に、藩政期に形成された都市の基本的な性格を色濃く受け継いでもいます。

このまちの姿をつぶさに観察すると、起伏に富んだ地形を背景に、水と緑が織りなす都市空間が形成され、そのなかで、気候風土に対応した多彩な文化が息づいていることがわかります。

地形に寄り添う 城下町

Castle Town

加賀・能登・越中を領地とした最大大名・加賀藩主前田家は、3つの丘陵・台地（卯辰山・小立野台

地・寺町台地）の間を2つの河川（浅野川・犀川）が流れるこの地の地勢を巧みに読み取り、両河川に挟まれた小立野台地の先端の城郭を中心とする、同心円状の城下町をつくり上げました。

金沢の自然

Natural Environment

金沢は、白山山系から連なる山々を南東に背負い、西には日本海の海岸が広がります。冬季には、海を越えてやってくる季節風が水蒸気を多く含んだ厚い雲をつくり、これが山脈にぶつかって上昇し冷やされることで、大量の雪が降ります。雪解け水はやがて山地から続く清冽な河川となって、下流に広がる平野を潤します。

この水に恵まれた自然環境が、都市の基盤を成しています。

浅野川



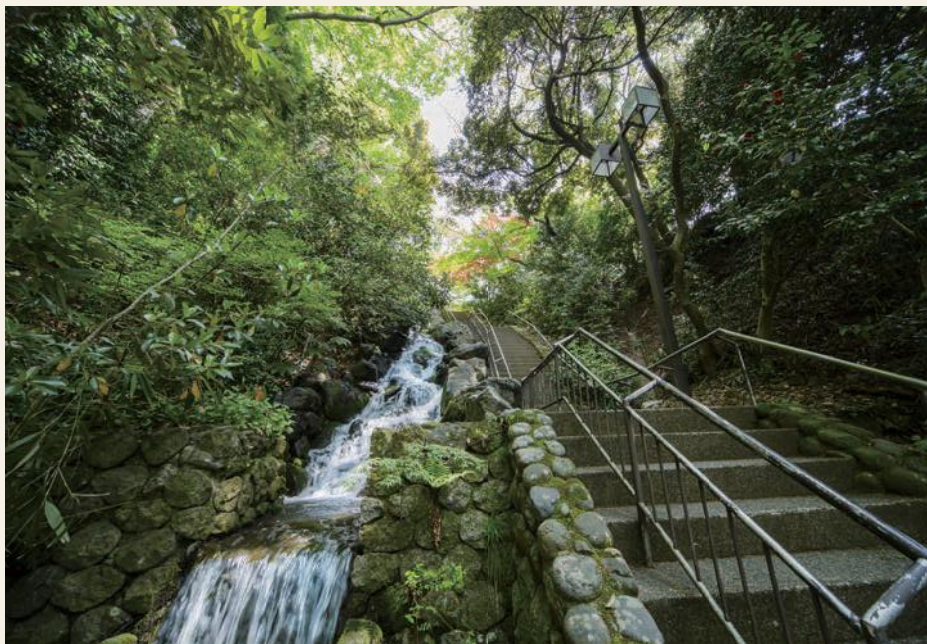
犀川



一冬の深雪



水と緑が織りなす都市空間 Water and Greenery



辰巳用水(分流)

豊富な木々がつくる緑がまちの全体に行き渡る様子を指して、金沢は古く「森の都」とも形容されてきました。
城跡を中心に広大な緑地を抱え、これを取り巻く庭園が旧武家地に多く集まっています。緑辺の丘陵などにも藩政期以来の寺院群や墓所の樹林があり、台地の緑に連なる斜面緑地とともに、現在も豊かな緑量を保っています。



上:金沢城・兼六園の緑
左:台地の緑の樹林

こうした多様な緑のあいだを縫うように、浅野川や犀川を利用する用水が天然の地形を生かして町中に張りめぐらされ、藩政期から現在まで、都市生活の様々な場面で活用されています。



大野庄用水

伝統文化

Traditional Culture

冬場に曇天が続くことで昼間でも薄暗く、湿り気のある重い雪がしんと降り積もる北陸の気候は時に陰鬱と評されることもありますが、このまちの人々を内業への集中に導きました。
能や生け花などの屋内で行われるたしなみが生活のなかに根づき、加賀蒔絵や金箔などの高度な工芸技術が花ひらいたその背景には、藩政期以来の振興策に

加え、こうした気候も関係しています。
なかでも茶道の隆盛は、一期一会の精神のもとに客人をもてなす場を重視し、美しく設えようとする価値観を育み、質の高い茶室建築や露地(茶庭)を生み出したほか、茶道具や掛け軸、懐石や和菓子などへのこだわりが、美術工芸、食文化などの発展にもつながりました。



上から:茶室と露地 / 和菓子 / 加賀蒔絵

動画「めぐるにわかなざわ」

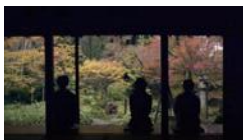
"Kanazawa Gardens:
Nature & City in Harmony"

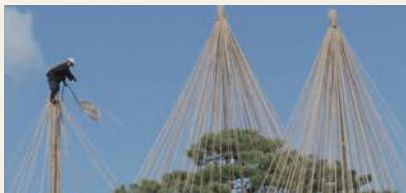
金沢市のパートナーである、国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット(UNU-IAS OUIK)では、金沢の庭園にみられる自然と文化のつながりにフォーカスした「めぐるにわかなざわ」動画シリーズを制作しました。ぜひご覧ください！



動画はこちら
English-Subtitle
Video Here

- Chapter 1 — 水がめぐるまち かなざわ
- Chapter 2 — 職人の暮らしと庭園
- Chapter 3 — 人と人をつなぐ庭園
- Chapter 4 — 文化と自然 : 金沢の未来





雪吊りの代表的な技法である「りんご吊り」は、雪の重みで庭木の枝が折れないよう芯となる柱を立て、その先端から下ろした縄で細やかに枝を吊っていきます。バランスを意識し放射状にめぐらせた縄が、円錐形の幾何学模様を描きます。

雪吊りの技法は他に「幹吊り」「竹又吊り」「しぼり」などがあり、どの技法を使うかはその木の特徴や樹形を見定めて決めます。

一 雪吊り Yukitsuri



兼六園の雪吊り

日本三名園のひとつに数えられる兼六園では、毎年11月1日から園内約800か所の木々の雪吊り作業が始まり、12月中旬までに冬支度を整える。



長町武家屋敷跡の藁掛け

細い小路や用水に沿って並ぶ土塀に、12月初旬から3月中旬にかけて、約500枚の藁が取り付けられる。



動画公開中

藁の上下の辺に1本ずつ竹を結び付け、土塀の腕木から垂らした縄で吊り上げて設置します。

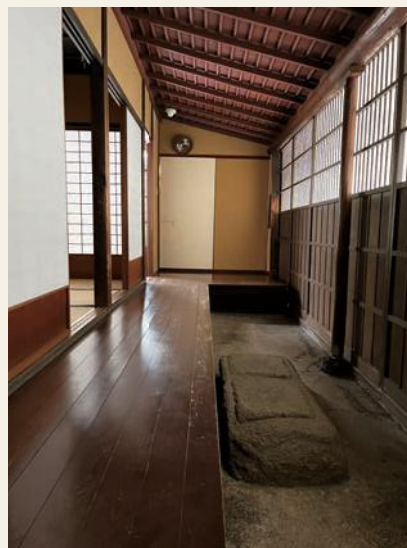


土塀の藁掛けは、水分が浸透し水結することによる損傷や、付着した雪が剥がれるのを防ぐ目的で行われるもので、庭師によりその伝統技術が継承されてきました。稲わらを丁寧に編んで作られた

一 薦掛け Komokake

今日では金沢の冬の風物詩となっている「雪吊り」・「薦掛け」は、この地方に特有の重く湿った雪から庭木や土塀などを保護するために編み出された技術であり、まさに雪国の知恵の結晶といえます。
長い年月を経て確立された多彩な技法、細部にまで気を配った意匠には、実用性だけではない景色としての美しさが追求されており、金沢の庭師が受け継いできた美意識が、職人の技巧として表れています。

雪国の知恵
Snow Country Wisdom
実用の領域を超えた美しさ



武家屋敷 寺島藏人邸

Samurai Residence
Kurando Terashima's House

代々450石の知行を有した
加賀藩士寺島氏の屋敷跡。邸
宅と庭園の一部が保存され、武
家屋敷の佇まいを今に伝えて
いる。

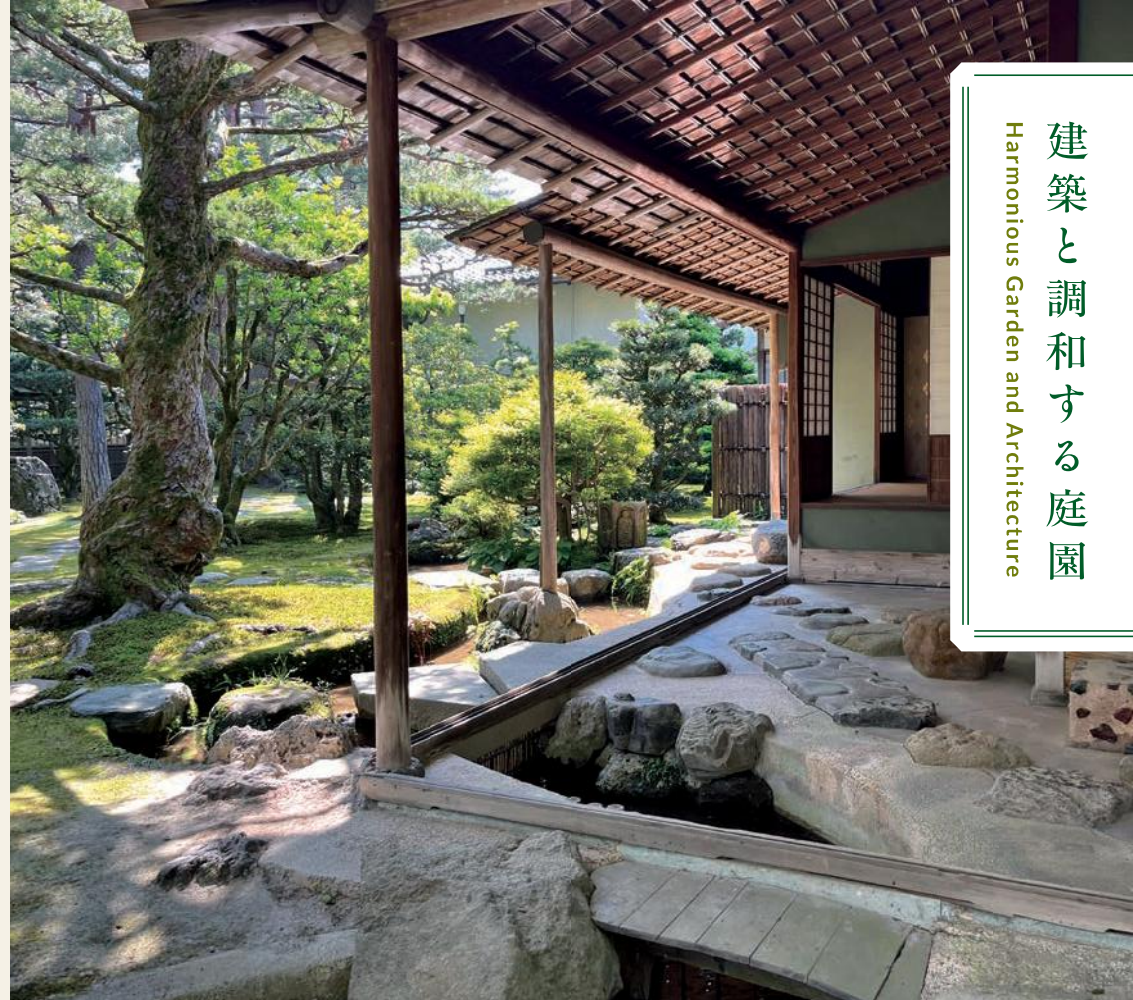
「金沢市指定史跡」

📍 金沢市大手町10-13
☎ 076-1224-12789

(武家屋敷 寺島藏人邸)



詳細はこちら



主庭(飛鶴庭)の土縁。辰巳用水から導いた流れを引き込む

建築と調和する庭園 Harmonious Garden and Architecture

金沢では藩政期から、武士住宅や町家に
「土縁」と呼ばれる土間の縁側空間を設
けるのが一般的でした。
外周に立てる板戸を開閉することで、屋
外空間にも屋内空間にもでき、雪により
庭先に出入れない冬の貴重な明かり
取りとなるほか、茶道が盛んな金沢で
は、飛石や小灯籠、手水鉢などを設える
ことで露地の役割をもたせた事例が多
くみられます。
このような建物と庭の境界をあいまい
にする軒内の庭には独特の風情があり、
建築と庭園の融合が図られているとも
いえます。

成巽閣庭園

Seisonkaku Garden

加賀前田家13代斉泰が、母である真龍院のた
め文久3年(1863)に造営した巽御殿
(後の成巽閣)に備わる庭園。主庭や2つの中
庭はそれぞれ趣が異なり、優美な建築と調和
する。「国指定名勝」

📍 金沢市兼六町1-2
☎ 076-1221-0580

(成巽閣)



詳細はこちら

上：座敷から土縁越しに臨む秋の庭 下左：冬の庭。雪吊りの
ほか、凍害を防ぐため藁を掛けた石灯籠、赤みを帯びた景石が
雪化粧のアクセントとなる 下右：一間幅の空間の外半分を土
間、内半分を板縁としている



詳細はこちら

兼六園 →
Kenroku-en Garden

加賀前田家が金沢城の外郭に築いた林泉回遊式の大名庭園。5代綱紀による作庭以降、歴代当主が整備を重ねてきた。辰巳用水の流れを取り入れ、多彩な水の意匠に生かしている。「特別名勝」

📍 金沢市兼六町
☎ 076123413800
(石川県金沢城・兼六園管理事務所)



詳細はこちら

尾山神社庭園 ↓
Oyama Jinja Shrine Garden

現況の庭園は慶応2〜明治2年（1866〜69）、加賀前田家13代斉泰の隠居に伴い整えられた。雅楽の楽器や装束をかたどった中島、石造アーチ橋などの斬新な意匠が特徴。「石川県指定名勝」

📍 金沢市尾山町11-1
☎ 076123117210
(尾山神社)



上：国内最大の池泉「霞ヶ池」に向かう曲水
下：霞ヶ池から下段の「瓢池」に流れ落ちる「翠滝」



辰巳用水を水源としていた池泉。鏡のような水面が静かに広がる



水系を生かした作庭

Channel-Based Garden Design

近接する兼六園から導き入れた水が、園内2か所の池泉を満たす



詳細はこちら

西田家庭園（玉泉園） ↑
Nishida Family Garden
Gyokusen-en

加賀前田家2代利長の近侍となった脇田直賢が江戸時代初期に着工、その後脇田家4代の頃に完成したと伝わる庭園。台地の縁の自然傾斜を生かした空間構成が特徴。「石川県指定名勝」

📍 金沢市小将町8-3
☎ 076122110181
(西田家庭園保存会)



詳細はこちら

玉泉院丸庭園 →
Gyokusen'imaru Garden

加賀前田家3代利常による作庭を始まりとし、廃藩時まで存在した。意匠性の高い石垣群を庭の構成要素とする独創的な庭園であったと考えられ、平成27年に再現された。「国指定史跡「金沢城跡」内」

📍 金沢市丸の内（金沢城公園）
☎ 076123413800
(石川県金沢城・兼六園管理事務所)

中心市街地には、城下町の形成に深く関わった辰巳用水や大野庄用水などにゆかりのある庭園が集中しています。水系と一体となった巧みな造園手法は江戸、明治、大正、昭和の各時代の庭園にみられ、池泉や滝、曲水などの水の意匠に生かされました。



池泉の水源は、藩政期には城内二の丸まで引かれた辰巳用水を利用していた

西氏庭園 →

Nishi-shi Garden



池泉に架かる反橋の底面には、時に陽の光が水面の移ろいを映して印象深い

武家屋敷跡地に大正時代に造営された住宅庭園。回遊性を備えた立体的な空間構成をもち、大野庄用水の清流を生かした水景や、県内外の様々な石材を配した意匠が優れている。「国指定名勝」

📍金沢市長町3-1-57

〈通常非公開〉

※見学会などの開催は

市ホームページ等で告知



詳細はこちら

蓬萊島が浮かぶ池泉。
岸辺には往時の分流や舟溜まりの痕跡が残る



松風閣庭園 ↓

Shofukaku Garden



詳細はこちら

加賀前田家の重臣として禄高5万石を与えられた本多家が代々所有した庭園。江戸時代初期の作庭と伝えられ、豊かな自然林を背にした池泉にはかつて辰巳用水の分流が注いでいた。「金沢市指定名勝」

📍金沢市本多町3-2-11

〈一部区域のみ見学可〉

※雨天時・冬季は閉鎖

☎076-1220-12469

(金沢市文化財保護課)

千田家庭園 ↑

Senda-ke Garden

大野庄用水沿いの武家屋敷跡地に、明治27年(1894)から翌年にかけて整備された庭園。池に見立てた曲水を中心に構成し、座敷からの觀賞のほか、対岸の築山への回遊性を備える。

「金沢市指定名勝」

📍金沢市長町1-4-22

☎080-1873-51

9695

(千田家庭園)



詳細はこちら

ツツジ類が咲く築山の裾に沿って、
曲水が穏やかに流れる



武家屋敷跡 野村家 →

Nomura-ke Samurai Residence

庭園は昭和16年(1941)以降、御殿に相当する建物の移築を契機に順次整えられたものと考えられる。藩政期に屋敷を構えていた野村氏由来と伝わる古木を生かした、趣深い眺めが特徴。

📍金沢市長町1-3-32

☎076-1221-13553

(武家屋敷跡 野村家)



詳細はこちら



大野庄用水を引く池泉に配した沢飛石が、建物と庭の一体性を強調する

Kanazawa Garden Map



尾山神社庭園 (4分)

成巽閣庭園 (1分)

兼六園 (2分)

石川橋 (2分)

玉泉院丸庭園 (9分)

尾山神社庭園 (2分)

鼠多門橋 (2分)

緑の小径 (5分)

松風閣庭園 (8分)

西外惣構跡 (13分)

武家屋敷跡 (1分)

千田家庭園 (2分)

西氏庭園 (9分)

尾山神社庭園 (9分)

武家屋敷

寺島藏人邸

大野庄用水

韃月用水

金沢城公園

日本庭園の歴史は古く、今から千年以上もさかのぼることができます。

加賀前田家の近世城下町都市として成立して以降、幸いにして戦禍に遭うことのなかった金沢では、武家社会の間に浸透した庭づくりの姿勢、庭に憩い、親しむ文化が連続と受け継がれてきました。

金沢城跡を中心に広がる市街地には、豊かな水環境や伝統文化を背景に生み出された歴史的な庭園が、今もなお多く残されています。

これらの庭園は、どれほど古い時代につくられていたとしても、いまを生きる私たちとの関わりのなかで存在しています。庭を大切に想い、手入れをし、様々に使うことで庭園は生き生きとその輝きを増していきます。

金沢の歴史・風土のなかで生まれ、育まれた金沢の庭園文化。その多彩な魅力がひとりでも多くの方に伝わり、歴史ある庭園が守られ、また新たな庭園が生まれていく、そうした未来につながっていくことを願っています。



金沢市文化財保護課

〒920-8577 石川県金沢市広坂1丁目1番1号

MAIL. bunkazai@city.kanazawa.lg.jp

TEL. 076-220-2469 FAX. 076-224-5046

金沢の庭園文化

動画はこちら

Garden Video Here

(English)

